

平成 29 年 3 月 22 日

県政記者クラブ各位

保健福祉部医療政策室

### 腸管出血性大腸菌（O26）<sup>ホ</sup>感染症の集団発生について

二戸保健所管内において、腸管出血性大腸菌（O26）感染症の集団発生がありましたのでお知らせします。本感染症は、少数菌量で発症するため、二次感染しやすいことから、下段の予防方法の県民への周知について、よろしくお願ひします。

なお、報道にあたっては、個人のプライバシー等の保護について、特段の御配慮をお願ひします。

#### 1 施設の種別等

二戸保健所管内の高齢者福祉施設（入所者定員 107 名、職員 74 名）

#### 2 患者の状況等

- ・ 3 月 9 日（木）から 3 月 10 日（金）にかけ、医療機関から二戸保健所に入所者 2 名の腸管出血性大腸菌（O26）感染症の発生届。
- ・ 3 月 22 日（水）までに、二戸保健所による調査及び環境保健研究センターによる検便検査を実施し、新たに 19 名（入所者 17 名、職員 2 名）の感染を確認。
- ・ 患者の主症状は下痢等で、重症者はおらず、いずれも回復傾向。

##### 【患者の人数等】

	入所者			職員		計
	70 歳代	80 歳代	90 歳代	20 歳代	40 歳代	
患者	0	6	2	0	0	8
無症状病原体保有者	2	5	4	1	1	13
計	2	11	6	1	1	21

〔医療機関からの届出 2 名、県環境保健研究センターでの糞便検査 192 中 19 名から菌を検出〕（単位：人）

##### 【患者等の男女別人数】

- ・ 男性： 7 名（患者 2 名、無症状病原体保有者 5 名）
- ・ 女性： 14 名（患者 6 名、無症状病原体保有者 8 名）

#### 3 保健所の対応等

- ・ 発症状況等の疫学調査の結果から、食中毒の可能性は否定。
- ・ 二戸保健所では、施設職員及び患者家族等に対し、手洗いの励行や消毒方法等を指導するとともに、感染者の有無、感染経路の調査を継続実施中です。

#### <参考>

県内の腸管出血性大腸菌感染症の届出状況（県感染症情報センター調べ）は、3 月 22 日現在 20 名（昨年同時期：5 名、平成 28 年の感染者数：56 名）

##### ※腸管出血性大腸菌感染症

ベロ毒素を産生する大腸菌の感染により、腹痛、下痢、血便等の症状を呈する。小児や老人は、溶血性尿毒症候群（HUS）を併発することがあるので注意を要する。菌の成分（表面抗原）により O157、O26 のようにいくつかに分類される。

##### ※予防方法

- (1) 帰宅後、調理前、食事前、用便後には、石けんで十分な手洗いをを行う。
- (2) 子どもや高齢者の排泄物の世話をした後は、石けんで十分な手洗いをを行う。
- (3) 食事を調理する場合は、十分に加熱する。
- (4) 食品は冷蔵庫や冷凍庫で保存する。しかし、冷蔵庫を過信しない。
- (5) まな板や布きんは、熱湯や塩素系漂白剤で消毒する。
- (6) 腹痛、下痢（血便）等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。